

会議録

会議の名称	第7回子どもの権利に関する条例策定委員会
開催日時	平成20年8月28日（木曜）13時00分から16時00分まで
開催場所	庁議室
出席者	（出席委員）野村委員長、安部委員、神山委員、嶋田委員、古川委員、石田委員、小林委員 （欠席委員）猪原副委員長、梅村委員、木曾委員 （関係部署）保育課長、児童青少年課長、子ども家庭支援センター長、教育企画課企画調整係坂本主事、教育指導課石井統括指導主事 （事務局）西東京市子育て支援課（二谷部長、森下課長、萩原課長補佐、倉本主査、矢部主事）
議題	（1）アンケート調査について （2）子どもワークショップについて （3）市議会での意見について
会議資料の名称	（1）アンケート調査について （2）子どもワークショップについて （3）平成20年度学校行事等一覧 （4）児童館行事等一覧 （5）西東京市議会会議録抜粋 （6）川崎市子どもの権利に関する条例
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>発言者名 発言内容</p> <p>森下子育て支援課長 第7回子どもの権利に関する条例策定委員会を開催します。野村委員長お願いします。</p> <p>野村委員長 本日は、アンケート調査の結果がまとまってきているのでそれを御報告いただいて、それから、子どもワークショップについて検討、その後市議会からの意見について紹介させていただきたいと思う。</p> <p>事務局 アンケートの中間まとめについて概要を報告させていただく。今現在は単純集計の結果のみが出ている。単数回答をするところに複数回答をした場合の取り扱いで、今後数字が動く可能性もある。現在の集計結果についての取り扱いには御注意いただきたい。なお、子どもからのSOS記述はなかった。</p> <p>- 速報結果の説明 -</p>	

野村委員長

学校及び教育委員会方々、御協力ありがとうございました。おかげさまで高回収率となった。今後の集計作業の予定はどうなっているか。

事務局

委員会でのご意見をいただき、10月末までに仕上げるようになる。

野村委員長

では、本日は集計結果を見ていただいて、注目した点があれば指摘していただきたい。

「自分のことが好きかどうか」という項目は重要で、クロス集計にも関わってくる。経年比較や他市との比較などが必要なところである。問1の「自分のことについて」でご感想があればお聞かせいただきたい。

安部委員

「自分のことが好きかどうか」「自分は人から必要とされているか」に関しては、小学生はかなり高い数値だが、中学生、高校生世代になると減るところと、大人の認識との差が気になるところである。

神山委員

小学校と中学校の教育課程の違いがあると思われる。中学生は目の前に受験があるが、小学生は教育課程で自己肯定感を育てているのでそういったことがあるかもしれない。

野村委員長

この段階では仮説でいろいろと発言いただきたい。

神山委員

子どもが先生から「つらくてどうしようもないこと」をされた経験が小学5年生の4人というのは重く受けとめなくてはいいだろう。子どもとの接し方で、小学生の子どもに対して握手をする、「頑張れ」と肩をたたくといった、今までの慣習でよしとされていたことが、今の子どもたちのなかには「体を触られた」と受けとめる子どももいるということである。

嶋田委員

「話を聞いてもらえなかった」というのが思ったより少ないのではないか。

野村委員長

「つらくてどうしようもないことをされたとき、どうしたか」と「自己肯定感」の有無は関係が出てくるかどうか。

問11「西東京市の子どもの相談所を知っているか」で、児童館は「知っている」「利用したことがある」とも数値が出ているが、前出の「つらくてどうしようもないことをされたときの相談相手」では1人だった。

安部委員

児童館は、相談する感覚ではないのだろう。

野村委員長

クロス集計や他のアンケート調査の比較などの結果が出て初めて分かることも多いと思うので、この段階では目に付いたことを挙げていただいた。今後、業者に結果をまとめてもらい、こちらで目を通して最終的なまとめをしたい。アンケート調査については以上とする。

次に、子どものワークショップについて。

安部委員

資料を見ていただきたい。今日は、子どもワークショップの大枠を決めていただきたい。この子どもワークショップの目的は、アンケート調査結果の検証と条例案が出てきた段階でそれに対する意見聴取とその反映である。

方法については、委員会型と出前型があるが、西東京市はその混合型がいいと思われる。それは、小中学生世代はある程度時間をかけて本音を引き出していくのがいいと思うので、委員会の形で同じ子ども達に集まってもらって意見を聞き、一方で、高校生世代は委員会型で公募しても集まりにくいと思われるので、高校生世代が集まっている場所に出かけて行ってヒアリングをするのが現実的であろう。障害のある子どもや未就学の子ども達のニーズについても、ヒアリングで拾えたらと思う。

実施するにあたって、対象とする年代を決めることと、ヒアリング調査の時期を決めたいので、ご意見をいただきたい。

野村委員長

委員会型のワークショップがある程度進んだ段階で、ヒアリング調査に委員会型のワークショップとして出かけていくという方法もあるか。

安部委員

そういう手法もあると思う。

嶋田委員

以前、青少年問題協議会で中学校と高校へ出向いて実施したことがあるが、学校に出向いていくと、学校の先生が立ち会うので子ども達が話しにくいというのがあった。

石田委員

市民活動で公募をしても実際には子どもが集まらないということがあった。学校推薦だと、いい子だけが集まることも考えられる。

安部委員

埼玉県鶴ヶ島市で教育大綱策定のために子ども達に来てもらったときには、学童クラブの指導員から声をかけられた子どもたちが60名ほど集まった。初回に集まった子どもたちに趣旨を説明して協力を要請したところ、25名程度が継続して集まってくれた事例がある。無理やり来させられたとしてもやる気がある場合もあるだろう。委員会型で実施するメリットは、条例ができた後、その子ども達が核になってくれることがあるかもしれないということだと思う。

嶋田委員

小学校の児童会は、全校にあるか？

神山委員

以前は選挙方式で実施していたが、今は時間の関係で、基本的には学級のなかで選ばれた子ども達で組織されている。

嶋田委員

児童会に協力してもらえるといいと思う。

神山委員

時間的になかなか厳しいと思われる。

石田委員

児童館はいろいろな子ども達が集まっているのでいいのではないかな。

安部委員

児童館に出前型で出掛けて行くのもよいかもかもしれない。

野村委員長

出前型で行くのに効果的なところは、児童館がひとつ。青少年問題協議会のほうではいかがか。

嶋田委員

青少年問題協議会は中学生世代、高校生世代が対象。コミュニティ・センターに来る中学生から大学生くらいの世代を対象に考えている。

安部委員

基本的には出張型で実施するように考えておいて、出張型で集まってもらった子どもたちに、後日条例案ができてきたときに集まってもらうのもいいと思う。

嶋田委員

中・高校生に集ってもらいたいということであれば、9月26日に環境浄化活動があるので、事前に声を掛けることができるだろう。

安部委員

未就学の子どもたちはこういう場に出てくる機会が少ないが、声を聞く機会が必要だろう。

嶋田委員

障害のある子どもの親たちの声を聞く機会もぜひお願いしたい。

野村委員長

そのほか、学校区単位ではどうか？子供会などは？

嶋田委員

ない。杉の子会だろうか。

安部委員

これまでに乳幼児の親御さんに実施したヒアリングはあるか？

事務局

子育て支援計画の中間見直しでは、子育てひろばや子育てグループに出掛けて意見を聞いた。

安部委員

そのときは障害のある子ども達の保護者のヒアリングはどうだったか？

事務局

「ひいらぎ」の保護者に聞いた。

石田委員

障害のある子どもの保護者の声は、機会を設ければ聞けそうだ。

嶋田委員

児童館の保護者の声も聞けるだろう。一番難しいのは、中・高校生世代を集めることだろう。

安部委員

市民まつりには、子育て支援課が参加するそうだ。子どもが大勢集まるということなので、簡単なアンケートなどができそうだ。

嶋田委員

乳幼児の親御さんに対しては、児童館で毎週事業があるのでそこに出かけるのがいいかもしれない。ただし、保育が必要だ。

石田委員

中・高校生の居場所として、いこいの森公園のボール広場がある。そこで、アンケー

トやヒアリングができそうだ。

野村委員長

外国籍の子どもが集まる場所はあるか？

小林委員

日本語教室のようなところはどうだろう。

嶋田委員

ただ、参加者が子どもとは限らない。

野村委員長

不登校の子どもが集まる場所は？

石田委員

スキップ教室はどうだろうか。

石井統括指導主事

スキップ教室にいる子どもたちのなかには、大人に会いたくない子どももいるので、その振り分けは難しいかもしれない。

野村委員長

児童養護施設は？

森下子育て支援課長

児童養護施設は市内に1箇所ある。

野村委員長

今挙がった場所を一覧にし、若干の解説を入れてまとめてもらいたい。

方法は、出掛けて行ってヒアリング調査をして、そこから委員会型を組織するという  
ことよろしいか。

全員

よい。

嶋田委員

出掛けていくときの人数はどうか？

安部委員

大人の人数は4、5名程度がいいと思う。

ヒアリングの開始時期は、アンケートの結果が出た、11月以降がいいだろう。冬休み  
と春休みに集中的に動くのも一つの方法だろう。今後のスケジュールについては、10  
月くらいから準備を始めて11月以降に開始することで事務局と調整したい。

野村委員長

広報の方法について、ここでやっていることを市民に伝えることが必要だろう。昨  
年、高浜市では大きなイベントにあわせていろいろな人が市報にコラムを載せたとい  
うのがあったが、そういうのはいかがか。

事務局

ホームページに掲載することが可能だろう。その他に市報に載せるということがあ  
る。

安部委員

子どもワークショップについてのチラシを学校に掲示してもらうことは可能か？

嶋田委員

可能だろう。

小林委員

図書館に掲示するのもいいと思う。

野村委員長

広報の方法についても追いついて考えていきたい。最後の議題に移る。

森下子育て支援課長

資料について説明させていただく。これは、ホームページなどでも公開されている市議会会議録から「子どもの権利」に関する意見、質問について抜粋をしたものである。答弁部分についても載せると相当なボリュームになるので、意見質問のみを載せた。委員の皆様にも市議会議員の方々からどんな意見が出ているのか知っていただき、議員の方々も委員の方々の意見のキャッチボールを図っていきたいという趣旨でお配りした。

野村委員長

条例案をどうするかという議論のときに参考とさせていただき、やり取りをさせていただくようになると思う。今の段階は基礎的な調査をしている段階であるので、御意見を受け止めた上で、今後の条例案づくりに役立てさせていただくと同時に、必要があれば、この委員会の後半部分になると思うが、実際にやり取りができる機会があってもいいと思う。

嶋田委員

お子さんをお持ちの親御さんに必要性を感じている方は大勢いると思う。市が今どうことをやっているのかが市民に全く伝わっていないと思うので、今後は委員会がどうしているのか伝える努力をしていくべきだろう。

森下子育て支援課長

その意味では、今回アンケート調査を行なったことは有効だったと思う。

野村委員長

アンケートのダイジェスト版を市報に載せるのはどうだろうか。

安部委員

連載で載せるとよいのではないか。

森下子育て支援課長

教育委員会では最近、教育計画の策定のためのアンケート調査を実施している。こちらの調査結果と合わせてみてみるのもよいのではないか。

坂本主事

現在、21年度からの5年計画の「西東京市教育計画」の策定を進めているところである。今年7月に小学校4年生と6年生、中学校2年生とその保護者の向けにアンケート調査を実施した。調査結果が出たら、子育て支援課のほうの調査結果と比較検討してみるのもよいと思う。情報提供をさせていただきたい。

また、現在策定中の教育計画の骨子案のなかには、子どもの権利に関することが取り上げられている。今後の懇談会での議論を待ちたい。

石田委員

いろいろな場でPRをしていく必要があるのではないか。私は3月までPTA会長をやっていたが、PTA会長が集まる「西東京市小中学校PTA・保護者の会連絡会」で話をしても関心が薄いようだった。チラシを持って出向くなどしていけば知らないところで決まったという感がなくなると思う。

野村委員長

今回は川崎市の条例策定に関わった小宮山健治さんの話をお伺いしたいと思う。次回は9月29日。

以上にて終了